北方工業大学【中国インターンシップ（日本語 T.A.）】

上原ゆき乃　　派遣期間：2018 年 2 月 26 日～2018 年 7 月 14 日

１．派遣前

⑴　中国インターンシップに参加しようと思った理由

私が中国インターンシップに参加した理由は、日本語教育に大変興味を持っていたからです。

私は高校生の頃から英語教師になるのが夢でした。大学入学後、英語の教職課程と合わせて日本語教員養成講座も受講し、教育について多く学んできました。3 年次に日本語や日本語教育についても本格的に学ぶようになり、「海外で日本語を教えることも楽しそう！」と思うようになりました。

一方で、卒業後すぐに海外で働いているといった人の情報が少なく、また新卒で日本語教師として働くことは様々な点で非常に難しいこともわかりました。しかし、それでも簡単にあきらめたくないという思いも強く、そんな時に同級生からこの中国インターンシップを教えてもらい、「ぜひやってみたい！」と感じました。大学生のうちに海外の日本語教育の現場に入って日本語を教えることを経験できる、この貴重な機会を逃したら絶対に後悔するという思いから、本インターンシップに参加しました。

⑵　中国インターンシップの選考試験に向けて行った取り組みや準備について

一つめは、海外（特に中国）で働く日本語教師が執筆した本や日本語教育に関する書籍をたくさん読みました。日本語教員養成講座を受講するうちに日本語教育についても興味を持ち始めましたが、「楽しそう、挑戦してみたい！」という気持ちだけでは選考試験に通過しないし、またこれは本当に自分がしたいことなのか、4 回生前期という大切な時期に行うべきことなのか、ということを考えるためにも、日本語教育に関する書籍を読み、理解を深めました。

二つめは、面接試験に向けての準備です。具体的には、日本語 T.A.に参加された先輩たちから選考試験に関するアドバイスを頂いたり、想定される質問について自分の考えをわかりやすく簡潔に伝える練習を繰り返しました。

⑶　候補生になってから出発前までの取り組みや準備について

候補生になってからは、日本語に関する知識を増やすために先生から薦めて頂いた書籍などをたくさん読み、日本語について勉強しました。また、これ以外にも著名な日本人作家の本を読んだり、日本の文化やしきたりについて調べたりするなどして日本について理解を深めることを心掛けました。さらに、日本語教師として実際に中国や海外で働かれている方が執筆された本を読み、自分がインターンシップに行ってからどのような生活を送っていくのかなどについてもイメージを膨らませました。

＜おすすめの書籍＞

私が実際に読んでみて、特に面白い、またわかりやすいと思った本について紹介します。いずれも大学や地域の図書館で借りることができますので、ぜひ読んでみてください。

・笈川幸司（2013）『こうして僕は自分の生き方を見つけた：中国大陸・日本語航海士という夢』東洋出版社

中国で大変有名な日本語教師である笈川先生の著書です。授業内活動において、学生の関心を引き、やる気にさせるコツなどがたくさん書かれています。インターンシップに行った時に試してみたいと思ったことをメモし、実際の授業で役立てていました。

・芦沢礼子（2001）『我愛成都：中国四川省で日本語を教える』東京：高文研
著者と中国の大学生との交流について細かく書かれています。中国の大学事情や大学生について深く理解することができます。中国の文化を理解したうえで如何に中国人大学生と接したらよいかなどのヒントがたくさん書かれています。

・佐々木瑞枝（2003）『生きた日本語を教えるくふう：日本語教師をめざす人へ』小学館
ただ単に日本語を教えるのではなく、それを使えるようにさせるためにどう教えるのか、その具体的な方法が書かれています。また、日本語教師としてどのような心構えや覚悟でこの仕事に向き合うべきなのか、といった点でも多くのことを学べます。

・荒川洋平（2016）『日本語教育のスタートライン』スリーエーネットワーク
この一冊で日本語に関する基本知識をほぼ網羅できます。日常にある身近な例を取り上げて、わかりやすく解説しています。私が読んだ日本語に関する教科書や参考書の中で、最も理解しやすい本でした。

・ミニマル＋BLOCKBUSTER（2013）『イラストでよくわかる日本のしきたり』彩図社
日本の文化についてとても簡潔に解説しています。日本に対する理解を深めるために電車やバスなどの移動時間を利用して読んでいました。イラストがたくさんあってわかりやすいので、授業のなかで学生に日本文化を紹介する時に補助教材として使うのにもいいと思います。

・齋藤孝（2002）『読書力』岩波新書
著名な日本人作家の本を読みたいけど何から読めば良いかわからないと思った時に手に取った一冊です。この本には、本の効果的な読み方以外に、たくさんの名著が紹介されています。読書を始めたいと思っている方におすすめです。

２．派遣後

⑴　担当科目、担当クラスについて

Ⅰ．３年次　日语口语⑷
Ⅱ．１年次　日语语音⑵
Ⅲ．1，３年次　授業前のウォーミングアップ（約１か月半）
Ⅳ．日本語コーナー（毎週火曜日 18:00～20:00）

①時間割

	月	火	水	木	金
1-2 限（8:00~9:35）					
3-4 限（9:50~11:25）	**日语口语⑷　１組**	**日语口语⑷　２組**			
昼休み（11:25~13:30）					
5-6 限（13:30~15:05）	**日语语音⑵　１組**	**日语语音⑵　２組**			
7-8 限（15:20~16:55）					

北方工業大学【中国インターンシップ（日本語 T.A.）】

②担当科目と教科内容

Ⅰ．3 年次　日语口语⑷

・使用テキスト：『基础日语 口语教程 3』高等教育出版社

第 1~9 課まで。4 コマ（2 週間）で 1 課分を学習する。前半の 2 コマは解説、後半の 2 コマは学習した内容を使い、クラスメートの前で発表してもらう。発表する内容は主にイベント等の説明、面接における自己 PR、ディベートなどで、これらに関連する日本語表現も学ぶ。あわせて、論理的に話す能力を養う。

Ⅱ．1 年次　日语语音⑵

・使用テキスト：『语音详解』外语教学与研究出版社

日本語のアクセントやイントネーションについて学ぶ。また、2 週間に 1 回、スピーチを作成し、クラスメートの前で発表してもらう。アクセントやイントネーションに注意しながら、発音練習を中心に授業を行う。必要に応じて、単語や文法事項の確認も行う。

Ⅲ．1，3 年次　授業前のウォーミングアップ（約 1 か月半）

初めの約 1 か月半は、授業始めの 10 分間を使い、授業とは関係のない内容で「日本語のウォーミングアップ」をするよう言われ、日本から持参した小学生向けのことわざ辞典、百人一首、日本語に関する雑学本などを活用し、毎回テーマを決めて学生に紹介しました。

Ⅳ．日本語コーナー（毎週火曜日 18:00～20:00）

日本語学科の学生は「日本語コーナー」に行くことが必須となっているため、学生がきちんと来ているかどうか日本語コーナーに行き、出欠をとっていました。「日本語コーナー」での主な活動は、4～5 人のグループに分かれて、毎回与えられるテーマに沿って自由に会話をすることです。事前準備は特に必要ありません。日本語学科以外の学生も参加可能で、学生たちと幅広い交流ができるいい機会でもありました。

③担当クラスの様子について

私は 1 年生の発音クラスと 3 年生の会話クラスを担当しました。1 年生は 1 クラス 40 人程度、3 年生は 20 人程度です。ほとんどの学生が真面目に授業を聞いてくれるので、とても進めやすかったです。しかし、集中力が切れたり、授業内容がつまらないと思うと、すぐに携帯電話を触ったり、他の課題などをする傾向がありました。授業中はできるだけ注意深く学生の反応（表情やしぐさなど）を見ながら、また教員側があまり一方的に話すことのないよう、適宜質問をしてみたり、PPT で表示した文章を読んでもらったりしていました。眠そうな学生には、「今、私は何をいいましたか？」や「この PPT のなかで一番大切なことは何ですか？」などと突然質問を投げかけることで、緊張感を保つことができると思います。

3 年生は全般的に日本語のレベルは高く、習熟度のバラつきも感じませんでしたが、1 年生のクラスでは、習熟レベルの差が大きいように感じました。1 年生の授業では、ほとんどの時間が他の教員のアシスタントという形でクラスに入らせてもらいました。具体的な仕事としては、授業内容についてこられていない学生たちのフォローをしたり、教室全体をまわりながら作文及び発音チェックをしました。

やる気のある学生は積極的に質問をしてくれるため教えやすかったです。一方、あまりやる気のな

い学生には「もう書けましたか？」「今日は眠たいのですか？」など責めるような口調ではなく、友達に語りかけるような感じで声を掛け、自分から関わっていくようにすると、授業に真面目に取り組んでくれるようになったりしました。また、授業で取り組んでいる内容について質問をすると、話が盛り上がり、そのような学生たちとも仲良くなれるきっかけになりました。

1 年生の学生は質問があると容赦なく中国語で話しかけてくるため、中国語はある程度聞き取れたほうがいいです。返答の際には初めは日本語で話し、どうしても理解できない場合には中国語で話すようにしていました。日本語 T.A.として、流暢な中国語を話せる必要はないと思いますが、学生からの中国語による質問を理解できる程度のリスニング力は必要です。

⑵　2 年次教育課程上の中国語留学（4 か月）との違い、感じたこと

「2 年次教育課程上の中国語留学」と「中国インターンシップ（日本語 T.A.)」の違いですが、「日本語 T.A.」は仕事として行くため、様々なことに責任が生じてきます。学生として行く留学だと「今日はちょっとしんどいから」「熱があるから」などで授業を休んでも他人に迷惑をかけることはありませんが、インターンシップではこうした理由で授業を休んだり、遅刻したりすることは許されません。慣れない場所で生活をするので、体調管理は日本にいる時よりもしっかりとする必要があります。

北方工業大学では、受講者数に余裕があれば中国語クラスを受講することができます。日本語の授業がない（日本語 T.A.の仕事がない）時は、できるだけ中国語の授業に参加しました。中国語クラスの担当教員に、インターンシップで来ていることを伝えると理解を示してくれ、中国語の勉強はもちろんのこと、インターンシップや生活面などについても気にかけてくださいました。こうして支えてくださる先生方のおかげで、中国語の勉強も継続することができました。

放課後は中国語クラスのクラスメートに色々と誘われることもありましたが、日本語の授業の準備をしなければならず、ほとんどのお誘いを断っていました。こちらも当然のことですが、日本語の授業を最優先に考えなければいけないため、他の留学生のように遊びに行ったりするなど自由に過ごせる時間は多くありませんでした。

せっかく中国にいるのだから、中国語をもっと勉強したいと思いましたが、中国語の授業以外の時間に課題や予習、復習をする時間が本当に取れず、ルームメイトが部屋で中国語の勉強をしている様子を見るととてもうらやましく感じました。「社会に出て仕事をし始めると、勉強をしたくてもできなくなる」ということを聞いたことがありますが、このインターンシップに参加して、この言葉の意味を痛感しました。学校や大学に通い勉強できるということは本当に貴重なことであり、学生として過ごせる時間をもっと大切にしないといけないと改めて感じました。

⑶　派遣前に準備しておいてよかったこと、準備しておけばよかったこと

＜準備しておいてよかったこと＞

・本をたくさん読む

特に中国で日本語教師をされている方の本を読むことをお勧めします。インターンシップに行く前から現地の様子をある程度理解することで、自分がインターンシップで試してみたいこと、達成したいことについて考えるきっかけになります。

・小学生向けの本を用意する

小学生向けのことわざ辞典や四字熟語の本は、イラストも多く、また簡単な日本語で解説しているため、授業で使うのにとても適していると思います。教科書以外の内容で、日本の文化や言葉について紹介する機会もたくさんあります。そうした時のために、わかりやすく紹介している本を持っていくととても便利です。百円ショップに小学生向けの様々な書籍が売られていますので、ぜひ足を運んでみてください。

・日本のお土産を多めに持参しておく

出発前に日本のお土産(一般的なお菓子とは別に、化粧箱に入ったもの)を多めに用意し現地へ持っていきました。到着後、日本語学科の先生方や研修指導してくださる先生、国際課（外国人留学生受け入れ担当部署）の職員の皆さんにご挨拶としてお土産を渡しました。国際課の職員さんは、現地到着後すぐにお世話になる方々です。お土産をお渡しすると非常に喜んでくれ、その後の様々な対応でもより親切にしてくださったように思います。

＜準備しておけばよかったこと＞

・平易な日本語表現を使って話す練習をしておく

授業中は、日本人同士で話す日本語ではなく、中国人学習者が聞いて理解できる日本語を話さなくてはいけません。初めの頃、担当の先生から「あなたが使っている言葉や文型が難しく、学生が理解できていないと思う」とご指摘を受けました。その際「初級レベルで習う単語や文型を使って話すことを意識すると良いですよ」とのアドバイスも頂いたので、まずは授業で話す内容をすべて書き出し、日本語初級テキストと照らし合わせながら、単語や文型のチェックを必ずするよう心掛けました。また「複文を使わない」ということも意識しました。外国語として日本語を学習する人の立場に立って、自身の日本語を見つめ直すといったことはすることがないと思います。したがって、事前に初級段階で学習する単語や文型などを把握しておき、平易な日本語表現を使って話をする練習をしておくことを強くお勧めします。

・薬を多めに持っていく

2 年次教育課程上の中国語留学では体調を崩すことがほとんどなかったため、心配ないだろうと思い、必要最低限の薬しか持っていきませんでした。しかし、今回は発熱や腹痛などで体調を崩すことが多くとても辛かったです。日本から持参した薬はすぐになくなってしまいました。保険診療のきく病院はタクシーで 30 分ほどかかる場所にあったため、本当に辛い時にしか病院に行くことができませんでした。言うまでもなく担当授業を休むわけにはいきません。薬があれば授業中だけでも症状を抑えることができるので安心です。地域や時期によっても状況がかなり違ってくるので、そうしたことも踏まえ、薬を多めに持っていくとよいでしょう。

３．中国インターンシップを通じて成し遂げられたこと、また成長できたと感じたこと

＜成し遂げられたこと＞

・中国に対する理解をより一層深めることができた

2 年次教育課程上の中国語留学とは違い、より近い距離で中国人大学生と接することができたため、中国人に対する理解をより一層深めることができました。一緒にご飯を食べる、時間に余裕がある時は相互学習をするなど、中国人と共に過ごす時間が多くなり、とても充実していました。語学だ

けでなく、文化や風習、ものの考え方の違いなど多くのことについて互いに教えあい、相互理解を深めることができました。

・より良い授業をするための姿勢

毎回の授業が終わると、その日の反省や改善点を考え、次の授業に生かすよう心掛けました。具体的には、毎回の授業での反省点と改善点を書き出し、あわせて担当の先生に授業のコメントを伺いに行きました。私の授業に関する先生のご意見や感想、改善すべき点などは自ら聞きにいかないと教えて頂けません。より客観的な感想や意見を知るためにも、担当の先生や仲の良い学生たちから自分の授業に対するコメントをもらうようにしました。学生たちは、私に気を遣うことなく、思ったことを率直に言ってくれ、「あの解説はこうしたほうがいい」などと具体的な意見も言ってくれるため、とても有難い存在でした。授業運営に関しては全く未熟で、毎回の授業をするたびに必ずと言っていいほど多くの課題が残りますが、それを一つ一つしっかりと確認し、少しずつでも地道に解決していくことで、「前回よりも今回はより良い授業をする」といった姿勢を維持することができました。これがこのインターンシップで成し遂げることができた成果の一つです。

＜成長できたこと＞

・大勢の前でも落ち着いて話せるようになった

大勢の前で話す機会が結構多かったため、そうした場面でも緊張せず、自分のペースで落ち着いて話せるようになりました。初対面の人の前で話す時はまだ少し緊張しますが、それでも以前と比べれば、随分と落ち着いて話ができるようになりました。

・コミュニケーション力がついた

このインターンシップを通じて、コミュニケーション力がついたと感じます。これまで、私は自分から話しかけるということは苦手でした。しかし、授業では自分から積極的に学生に関わっていかないと何も始まらないということを痛感し、教室内を回っている時にも学生たちに積極的に声掛けをするようにしました。実際に話しかけてみると笑顔で接してくれる学生が多かったです。どのようなことでも自分から気軽に話しかけてみることで、授業内容に関する質問をしてくれたり自分のことについても話してくれたりと、学生たちとのコミュニケーションの機会が格段に増えました。

４．後輩たちへ

このインターンシップでは、語学留学では経験できないことを多く経験することができました。中国人の学生ともたくさん交流ができ、新たな発見や気づきもたくさんあります。中国の大学事情や大学生生活を身近に感じ、深く知ることもできる素晴らしいプログラムです。

授業を担当することは、初めての経験で最初は緊張の連続かもしれません。授業準備などでたくさん悩み、辛いこともあります。しかしそんな時は、1 人で悩みを抱え込まず、先生や周りの友達などを頼ることも大切だと感じました。北方工業大学の日本語学科の先生方は本当に優しく、頼りになります。悩みがあったり、困った時は必ず助けてくれました。

インターンシップの 4 か月間は、長いようであっという間に終わってしまいます。語学留学よりも自分次第で大きく左右することもあります。怠けてしまわないためにも、自分が 4 か月後にどう成長していたいのか、この活動を通じて何を達成したいのか、こうしたことを常に意識しながら積極的に行動することが大切です。悔いのないように頑張ってください。